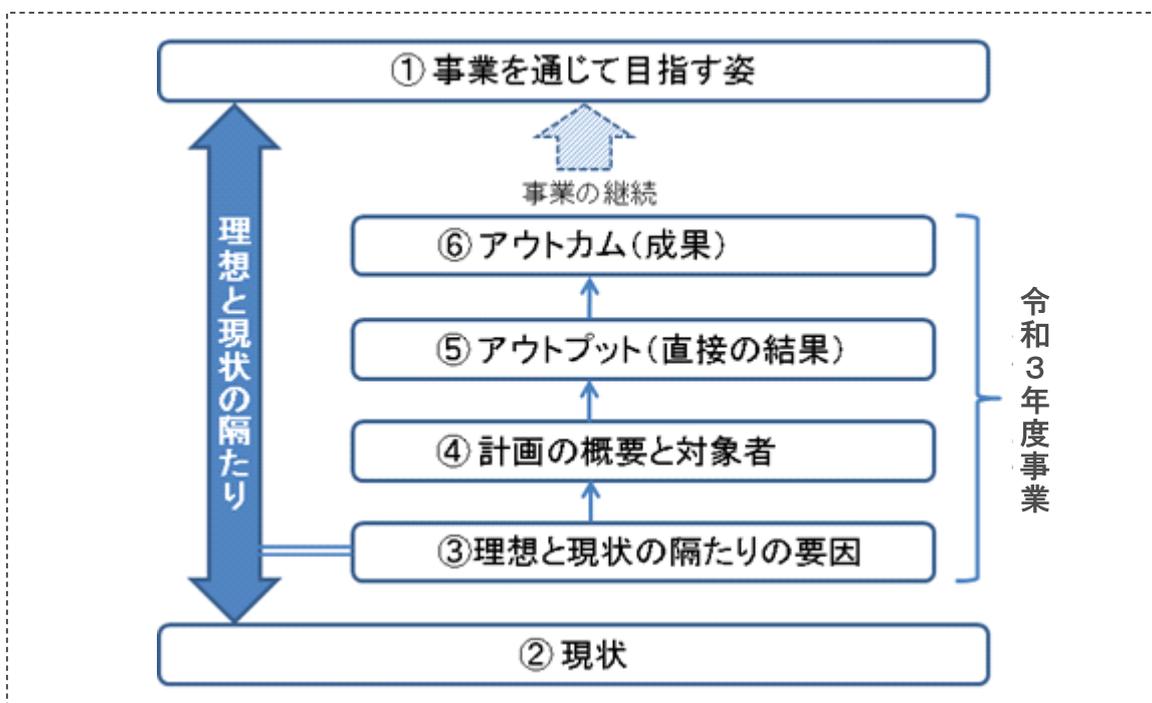


## 事業計画書

事業名	井原市井原町商店街地区歴史的建築物残存調査事業	
グループ名	井原市井原町商店街地区歴史的建築物残存調査事業実行委員会	
代表団体	名称	NPO法人倉敷町家トラスト
	住所	倉敷市東町 1-21
	担当者	中村泰典
	電話番号	080-5232-6462
	E-mail	info@kurashiki-machiya-trust.jp

### ◆ 記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



### ◆ アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。アウトカムには、アウトプットに直結した短期のものと、目指す姿へつながる長期のものがあります。

#### アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、○○○というアウトプットが生じ、次にその成果として、△△△というアウトカムが生じる関係にあります。

**事業実施→アウトプット→アウトカム**

## ◆ アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム（短期）	アウトカム（長期）
学習支援事業	学習会の開催	月4回，各回20名参加	参加者の学習意欲の向上	家庭での学習習慣の定着
就労支援事業	冊子作成・配布	1千冊作成，800人に配布	就労に必要な知識の習得	就労の定着，経済的自立
保護者支援事業	居場所の運営	週2回，各回15名参加	育児の負担感の緩和	子どもの健やかな成長
移動支援事業	高齢者の送迎	週2回，各回5名利用	移動手段の選択肢の増加	移動困難者の減少

## 1 事業を通じて目指す姿

事業を通じて目指す姿や，事業を実施する目的はどのようなものですか。事業の実施により，地域課題が改善に向かった後，「どのような地域・人が，どのような状態になっていることを目指すのか」について，具体的に記入してください。

井原市井原町地区下町、中町、本町、新町、向町の商店街地区を中心に歴史的建築物の残存状況を知り、残存建築物の保存・再生・利活用を進めることで、今まで以上に魅力を増した歴史的景観になることを目指す。

## 2 現状

1「**事業を通じて目指す姿**」と比べて，現状はどのような状況にありますか。「どのような地域・人が，どのような状況にあるのか」について，具体的に記入してください。

井原市井原町地区下町、中町、本町、新町、向町の商店街地区は歴史的建造物が未だ多く残存していると思われるが、井原町商店街地区の残存歴史的建築物は平成4年の調査以来追跡調査ができていないので残存状況が把握できていない。地域の歴史的建築物の価値を住民が十分認識してできていないことなどが原因で、歴史的建築物が安易に解体、更新され、歴史的文化的景観の価値が失われている。

## 3 目指す姿と現状の隔たりの要因

1「**事業を通じて目指す姿**」と2「**現状**」との隔たりを生み出している，主な原因はどのようなものと考えますか。

寺社仏閣や権威的建築物、大型の屋敷などは比較的文化的価値が認識されているが、住民の暮らす伝統的な町家の価値に気付くことが少ない。それが原因で建築物の価値を十分吟味せず安易な解体、更新が進み、景観が変化している。

#### 4 計画の概要と対象者（令和3年度）

##### (1) 事業の形式

次のいずれか該当する事業の形式に☑をしてください（両方でも可）。

- 実践を通じてグループ内でノウハウを受け継ぐ事業
- グループ内の団体それぞれが持つノウハウを持ち寄り、地域の新たな催しや地域資源を開発する事業

##### (2) 計画の概要

**3 「目指す姿と現状の隔たりの要因」**を取り除くため、どのような事業を実施しますか。  
「どのような地域・人に対して、どのような活動を行うのか」について、簡潔に記入してください。（※計画の詳細は下記7に記入してください）。

地域の歴史的建築物の残存調査を専門家、関連団体、市外の有志、学生らと地元住民が地域ごとの残存調査を実施し、価値の見直しを行い、広く市民に歴史的建築物の価値を知ってもらう。

#### 5 アウトプット（直接の結果）

##### (1) 事業を通じて提供するサービス

事業を通じて、「どのような地域・人に対し、どのようなサービスを提供するのか」について、具体的に記入してください。

井原市井原町商店街地区の歴史的建築物の残存調査を専門家、関連団体、市内外の有志、学生らと地元住民が地域ごとの残存調査をし、歴史的建築物の残存状況を実際に調査する中で知ってもらい、広範囲に歴史的建築物が残存すること確認して、地元の歴史的景観の価値を再認識し、地域のシビックプライドを高める。

##### (2) アウトプットを測る指標と数値目標

事業のアウトプットを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
地域資源としての歴史的建築物の残存数。	不明（平成4年以来調査なし）歴史的建築物の残存状況が数値化されていない。	地域資源としての歴史的建築物の残存数の確認。

### (3) アウトプットの測定方法

事業を通じて、アウトプットを測る指標をどのように測りますか。数値目標の達成状況を把握できる、具体的な方法を記入してください。

NPO 法人倉敷町家トラストが倉敷市・高梁市で実施した調査を踏まえて、専門家、関連団体、市外の有志、学生らと地元住民が、地図担当・撮影担当・記録担当の3~4名程度のグループを組み、地域を歩き、伝統的建造物の現状を1件ずつ記録していく(悉皆調査)。調査で得られた残存状況を、数値化し、地図上に落とし込んで、残存状況の見える化を図る。

## 6 アウトカム(事業の成果)

### (1) 長期のアウトカム

1「事業を通じて目指す姿」の一段階手前の状況はどのようなものですか。最終的に実現しようとしている、地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

地域の歴史的建築物の地図を作成することで、地域の残存状況の見える化が実現。残存状況が目に見える形になることで、地域での歴史的建築物の価値を認識でき、大切に保存・再生の意欲が高まり、具体的な再生や利活用が始まり、地域の価値が高くなっていくことを感じるようになり、再生利活用が高まること。(京都でさえ30年前に京町家に価値を感じていた人は15%程度であったが、調査を含む長期にわたる町家再生利活用など様々な活動や施策が実って、現在価値を感じている人は80%になっている。京都の例でもわかるように歴史的建築物の価値の認識、再生利活用には長い時間がかかるが、活動の成果は景観形成の向上はもとより、地域の価値を高め、誇りをもたらす。)

### (2) 短期のアウトカム

今年度の事業のアウトプットを通じて、実現したい成果はどのようなものですか。アウトプットから今年度中に導かれる地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

地域の歴史的建築物の地図を作成することで、地域の残存状況が見える化が実現。残存状況が目に見える形になることで、地域での歴史的建築物の価値を認識でき、保存・再生への意欲が芽生えること。

### (3) 短期のアウトカムを測る指標と数値目標

事業のアウトカムを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
地域の歴史的建築物に関する再生・利活用などの問い合わせ。	現在の歴史的建造物の再生利活用の問い合わせ。(井原市には登録有形文化財としての民家が登録されていない)	歴史的建築物に関する問い合わせが出てくる。

## 7 計画の詳細

### (1) 事業の具体的な内容

#### 調査概要

##### 1 調査目的

井原市井原町商店街地区の現状について、NPO法人倉敷町家トラスト、岡山県建築士会&備中町並みネットワーク、井原町まちづくりの会、地域の高等学校、地区住民、市民の有志により伝統的建造物の残存状況を明らかにする。また、調査結果を市・企業・市民と共有し、町並み景観をどのように整備していくかを議論し、また整備するための制度や仕組みづくりの基礎資料とする。

##### 2 調査方法と日程

###### ・調査方法：

地図担当・撮影担当・記録担当の3、4人程度のグループを組み地域を歩き、歴史的建造物の現状を1件ずつ記録していく(悉皆調査)。調査票は倉敷中心市街地調査で使用されたものを使用し、建て替えや取り壊しだけでなく、建具や外構も含めた外観も記録する。

###### ・調査範囲：井原市井原町商店街地区(向町・新町・本町・中町・下町)

###### ・調査日程：

2021年9月から11月までにNPO法人倉敷町家トラスト、岡山県建築士会&備中町並みネットワーク、地区住民、市民の有志などによる約800世帯の悉皆調査を実施。

##### 3 調査対象とする歴史的建築物

###### ・町家

町家とは、一般に町なかにある家、商家などを指す。主に都市の中心部や宿場町等で、高い密度で人々が住み、商業や手工業などの産業活動が営まれた地域に多く立地する。用途は主に商業(物販、飲食、宿泊等)や手工業が営まれた職住併用住宅が中心だが、専用住宅である仕舞屋(しもたや)も含まれる。また、町家等には、まちなかに立地する武家屋敷、その跡地に立地した伝統的な様式の専用住宅等も含む。

一般的には、建築年代は江戸期から概ね終戦前までに建築されたものを伝統的な町家として捉えている。戦時中とその前後に建築活動が停滞したこと、戦後に近代的な工法が普及したことによって、戦後の建築ストックとは異なる価値とみなされるが、今回の調査においては、昭和30年頃までに建てられたものも調査対象とする。

##### 4 調査結果の集計・マップ化と広報

調査の残存建築物の地域別の集計と残存建築物マップを作製・報告書を作成して住民はもとより関係者へ情報提供を行い広く市民への広報を行う。

## (2) 事業のスケジュール(準備～実施～報告)(今年度は感染症の影響により変更の可能性)

7月	調査詳細検討(調査範囲・調査項目など) 関係者面談・概要説明
8月	岡山建築士会井笠支部・高等学校・各町内会・備中町並みネットワーク日程調整
9月	説明会及び講演会 調査開始(毎回3チーム×2地区・20世帯程度)7日間の調査
10月	調査
11月	調査
12月	中間報告書提出 補完調査
1月	データ分析・調査報告書作成
2月	調査報告書完成・
3月	報告会開催 実績報告書提出

## 8 ノウハウとその有効性

ノウハウとは、団体が過去に実施した活動の中で習得したり、成功や失敗の経験から得たりした、地域の課題解決に有効な手法や技術などの蓄積を言います。それぞれの団体が有するノウハウの内容と、それを事業にどのように活かせるのかについて、具体的に記入してください。

## 【NPO 法人倉敷町家トラスト】

2006年設立以来、倉敷市中心市街地町家調査を継続的に実施している。2020年3月「倉敷市中心市街地における伝統的建造物の残存調査報告書」作成、会員には建築、歴史の専門家がおり、町家再生利活用の実績も多い。全国的にも質の高い活動を展開している。また備中地区のみならず全国にもネットワークがあり、この分野のトップクラスの人材とも連携できる。

## 【備中町並みネットワーク】

備中地区の主だった町並み保存、まちづくり団体のネットワーク。岡山県建築士会もメンバーであり、この分野の専門家も多く、調査の指導ができる。また調査の外部評価を期待できる。

## 【井原町まちづくりの会】

地域の伝承・維持向上、地域活性化に向けた事業、官民協調したまちづくりに取り組む市民団体。

地区の市民で構成されている。地元住民、町内会や地域の団体とのコーディネートと支援と調査後の活動が期待できる。

## 9 事業完了後の取り組み

補助金の交付条件として、事業の完了後1年以内に、事業の成果を活かした取り組みを実施することとしています。事業の成果が継続して地域に根付くのに有効な取り組みであれば、その規模や内容は問いません。事業完了後に予定している取り組みの内容を具体的に記入してください。

### (1) 事業の実施主体となる団体名

井原町まちづくりの会

### (2) 事業完了後の取り組みの概要

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 調査報告をもとに、まちづくり講演会の開催</li><li>2. 地域の歴史まちづくりとの調整</li><li>3. 残存町家の顕彰制度を検討する</li><li>4. 地域のまちづくりの支援</li></ol> |
|--|

## 10 SDGs との関係

次のSDGsの17のゴールのうち、申請する事業に関する番号を選び、1～2個記入してください。なお、当補助金の要件を満たせば17（パートナーシップで目標を達成しよう）に該当しますので、あらかじめ記入しています。

① 17    ② 11    ③ 12

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<b>1</b> 貧困をなくそう 	<b>2</b> 飢餓をゼロに 	<b>3</b> すべての人に健康と福祉を 	<b>4</b> 質の高い教育をみんなに 	
<b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう 	<b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に 	<b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	<b>8</b> 働きがいも経済成長も 	
<b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう 	<b>10</b> 人や国の不平等をなくそう 	<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを 	<b>12</b> つくる責任 つかう責任 	
<b>13</b> 気候変動に具体的な対策を 	<b>14</b> 海の豊かさを守ろう 	<b>15</b> 陸の豊かさを守ろう 	<b>16</b> 平和と公正をすべての人に 	
<b>SDGsとは</b> 2030年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標です。経済・社会・環境の諸課題の統合的な解決を目指し、17のゴールは基本コンセプトである「だれ一人取り残さない」を実現するために、分野別の目標としてまとめたものです。				<b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう 

## 収支予算書

	所属・役職	氏名
経理責任者	NPO 法人倉敷町家トラスト	中村泰典
経理担当者	NPO 法人倉敷町家トラスト	中村陽二

## 1 収入の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
補助金		663,000	※千円未満切り捨て, 上限 750 千円
その他		22,500	倉敷町家トラスト活動費より
<b>収入合計</b>		<b>685,500</b>	(支出合計と一致)

## 2 支出の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
人件費	報告書作成	170,000	850 円×4h×10 日×5 人
謝金	調査指導	330,000	7000 円/一日×40 人・講演会 50000 円
旅費交通費	ガソリン代	8,000	800 円×10 回
	電車代	62,400	2080 円×3 人×10 日
消耗品費	用紙	6,000	A3 : 1500 円×2 冊、a4 : 1000 円×2 冊
	インク	5,000	5000 円
	地図データ	30,000	住宅地図データ利用料
	その他	19,900	
印刷製本費			
通信運搬費	書類送付	13,500	90×150
保険料		4,200	ボランティア保険 28 円×150 人
使用料・賃借料		24,000	会場費 (8 回) ×3,000
委託料		0	
<b>対象経費計</b>		<b>663,000</b>	
食糧費	調査時飲料	22,500	150 人×150
その他		0	
<b>対象外経費計</b>		<b>22,500</b>	
<b>支出合計</b>		<b>685,500</b>	(収入合計と一致)

※金額は切り上げて千円単位で記入してください。